

# 青年期における母子関係尺度の作成

○鈴木 花（名城大学大学院）

塙崎万里（名城大学）

キーワード：青年期，母子関係，同一視

## 問題と目的

親子関係のあり方は、親の養育行動・態度に対する子どもの認知が影響していることが考えられている。親子関係のなかでも母親との関係は父親と比べて子どもと接する時間が多く、より密接した関係を持つ。とりわけ、母親と女子の関係は男子に比べてその影響は大きいとされている。また、青年期では自らと親を客観視し始め、意識的・無意識的に親を同一視あるいは異質視しようと努める（西平、1990）。若原（2003）は、親を愛する態度が親を同一視する程度と関連していることを明らかにした。親子関係を理解する上で、同一視を考慮することは重要であると考えられる。

本研究では、大学生が認知する母親への態度および同一視を測定する項目による尺度を再構成し、因子分析結果をもとに青年期における母子関係尺度を作成することを目的とする。

## 方 法

**対象者** 愛知県内の大学生 116 名（男性 62 名、女性 54 名、平均年齢 20.90 歳、 $SD=1.23$ ）を対象に質問紙調査を行った。

**調査内容** 態度に関する項目は、櫻井（2004）の「母親との関係に関する認識」尺度、小高（）の「青年の母に対する態度・行動について」尺度を選定、参考に作成した。同一視に関する項目は若原（2003）の「親への同一視」尺度から項目を選定、参考に作成した。

## 結果と考察

選定および新たに作成した全 44 項目に対して因子分析（主因子法・Promax 回転）を行った。固有値の推移と解釈可能性から 4 因子構造が妥当であると判断した。因子負荷量が .40 未満の項目、信頼性・妥当性の低かった項目を削除し、再度 4 因子を仮定して因子分析（主因子法・Promax 回転）を行った。最終的に 26 項目を選択した。因子負荷量の高い項目の内容から、第 1 因子の 7 項目を「親密」因子、第 2 因子の 7 項目を「不承」因子、第 3 因子の 7 項目を「モデル」因子、第 4 因子の 5 項目を「取り入れ」因子と命名した（Table1）。4 因子間の累積寄与率は 53.30% であった。

また、尺度の内的な一貫性を検討するため、Cronbach の  $\alpha$  係数を算出したところ、「親密」因子で .90、「不承」因子で .82、「モデル」因子で .90、「取り入れ」因子で .79、と高く、満足しうる内的な一貫性が認められた。

Table1 母子関係尺度因子分析（主因子法・プロマックス回転）

		F1	F2	F3	F4
<第1因子：親密> $a=.90$					
問2_26	母親の存在を大切に思う	.88	.03	-.04	-.01
問2_43	母親の子に生まれてよかったと思う	.74	-.16	-.01	-.05
問2_17	母親に親しみを感じる	.64	-.12	-.16	.21
問2_22	母親とは距離を置いている	-.61	.35	.35	-.17
問2_40	母親の愛を感じている	.54	.00	.17	.17
問2_9	母親を立派だと思う	.54	-.04	.15	.03
問2_35	理想的母親だと思う	.54	-.19	.28	-.06
<第2因子：不承> $a=.82$					
問2_38	母親をどこか許せない気持ちがある	-.08	.66	.08	-.04
問2_6	母親の価値観に疑問を持つている	-.01	.63	-.26	.14
問2_11	母親の態度や行動が理解できない	-.16	.57	-.26	.19
問2_1	母親は私とは異なる独立した考えがあると思う	.04	.54	-.04	-.01
問2_41	母親の考え方方に仕方がなく合わせることがある	.12	.52	-.18	.01
問2_44	母親の考え方方は古いと思う	-.05	.44	-.14	.22
問2_3	母親を意識しないようにしている	-.19	.43	.13	-.19
<第3因子：モデル> $a=.90$					
問2_12	母親の考え方や態度に近づきたい	-.18	-.22	.72	.16
問2_18	自分の理想の人間像は母親をモデルとしたものだ	-.12	-.06	.67	.22
問2_10	母親の態度や行動には意味があるのだと思う	.11	.02	.63	-.09
問2_24	母親のような人になりたい	.00	-.25	.61	.16
問2_29	母親を魅力的な人間だと思う	.35	.02	.50	.09
問2_42	母親のような生き方がしたいと思う	-.04	-.26	.49	.07
問2_23	母親の価値観を受け入れている	.28	-.01	.46	.02
<第4因子：取り入れ> $a=.79$					
問2_30	自分は母親に似てきたと思う	.02	-.09	-.02	.71
問2_20	気付かないうちに母親の考え方方に似てきたと感じる	-.07	.05	.19	.65
問2_34	自分の価値観には母親の価値観が反映していると思う	.01	.04	.20	.61
問2_32	母親と同じような行動をしていたと気づくことがある	.05	.16	-.03	.60
問2_15	自分は母親の影響を受けていると思う	.37	.18	.09	.44
因子間相関					
F2 不承		.65			
F3 モデル		.67	.66		
F4 取り入れ		.52	.51	.39	

## 引用文献

- 小高恵（2000）. 親一青年関係尺度の作成の試み  
南大阪大学紀要, 3, 87-96.
- 西平直喜（2000）. 成人になること: 生育史心理学  
から. 東京大学出版会.
- 櫻井登世子・本多潤子（2004）. 「なりたい親」に  
およぼす思春期の親子関係の影響 人間福祉研  
究, 7, 65-76.
- 若原まどか（2003）. 青年が認識する親への愛情  
や尊敬と、同一視および充実感との関連 発達  
心理学研究, 14, 39-50.